

益田市(益田広域)における 救急医療の現状と課題

益田広域消防署

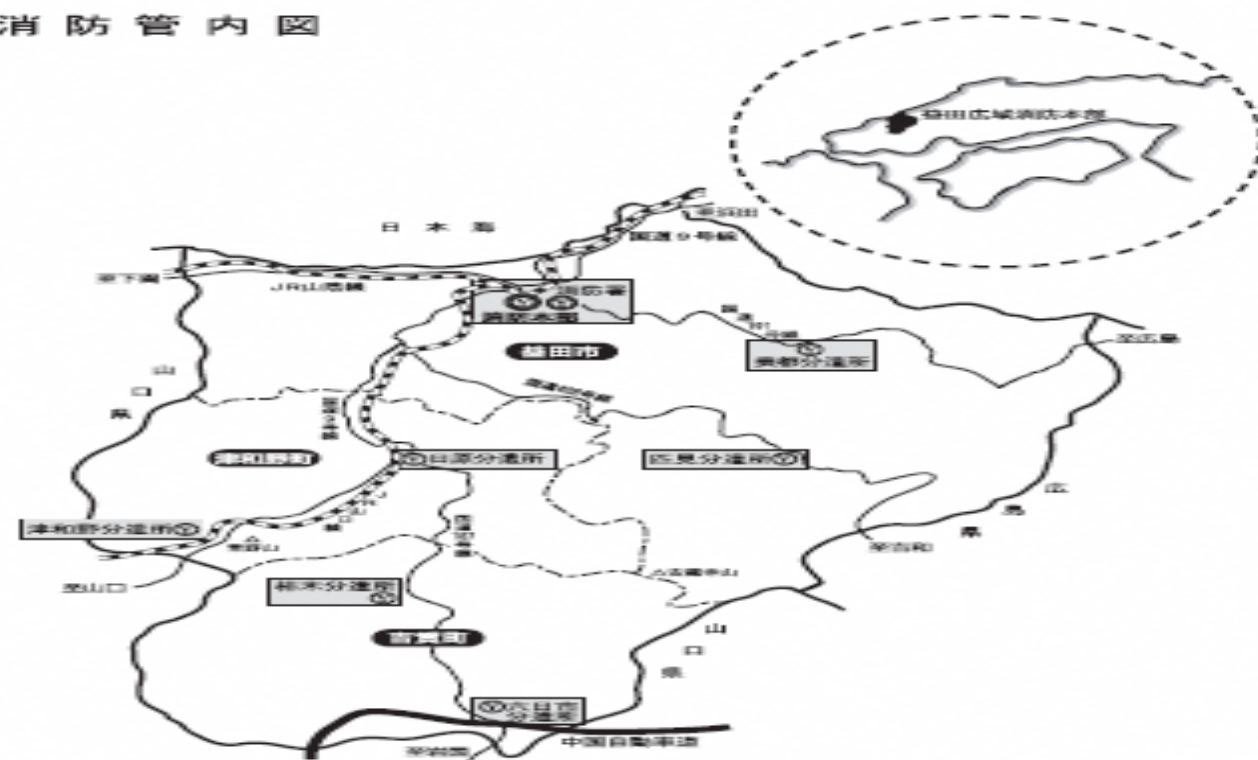
益田広域消防の概要

位 置 図



位 置	東経131度50分 北緯34度40分 (消防本部)
面 積	1,376.72 km ²
人 口	55,392 人
世 帯 数	27,361 世帯
	1 本部 1 署 6 分遣所

広域消防管内図



構成市町別面積および人口

(令和6年3月31日現在)

市 町 別	面 積 (km ²)	人 口 (人)	世 帯 数 (世帯)
廣 島 市	733.19	43,327	21,156
津 和 野 市	307.03	6,466	3,249
吉 賀 市	336.50	5,599	2,956
合 計	1,376.72	55,392	27,361

令和6年 救急活動状況

益田広域管内件数 4,194件（過去最高）

（益田市・津和野町・吉賀町）

一日あたりの出場件数 11.4件（約2時間に1件）

益田市～3,130件（全体の約75％）

益田署 2,788件

美都分遣所 255件（過去最高）

内益田署管内へのお出で89件 匹見管内へのお出で1件

匹見分遣所 87件

内益田署管内へのお出で1件

※日原分遣所 益田署管内へのお出で22件

令和6年 人口搬送割合

益田市広域圏の人口(令和6年12月末)

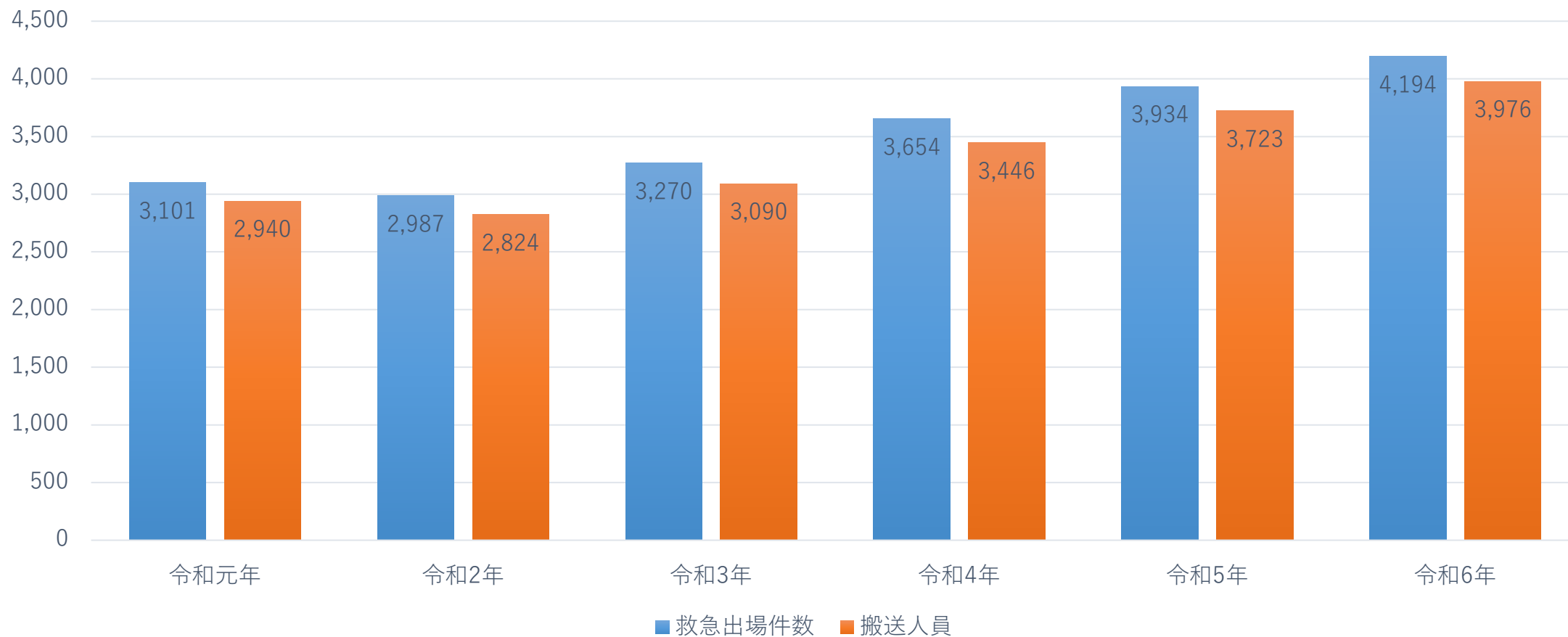
益田市42,995人 津和野町6,484人 吉賀町5,606人

益田広域圏の救急搬送人員 3,976人

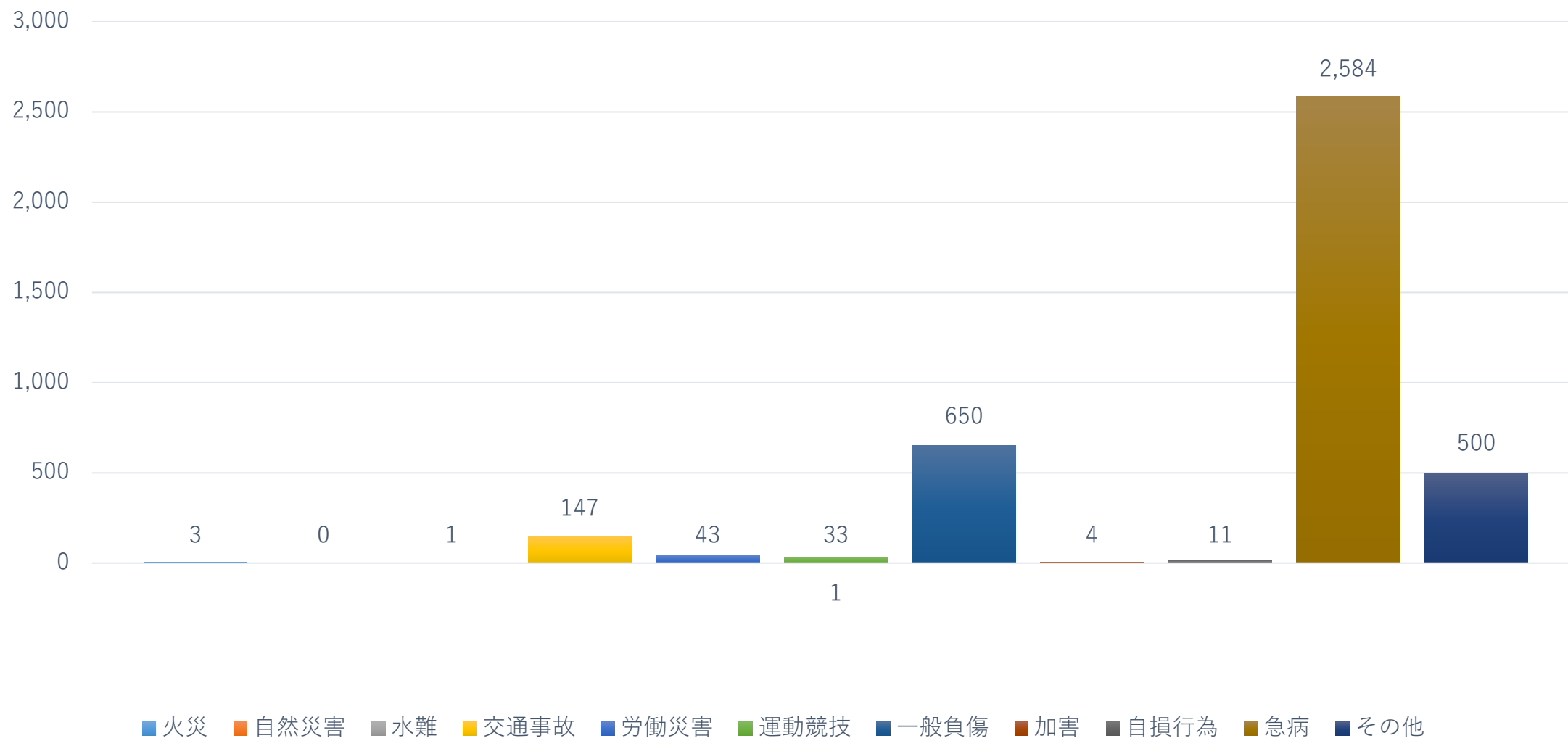
$$(42,995人 + 6,484人 + 5,606人) \div 3,976人 = 13.9$$

一年間で同じ人を複数回搬送することもあるが、計算上14人に1人が搬送されている。

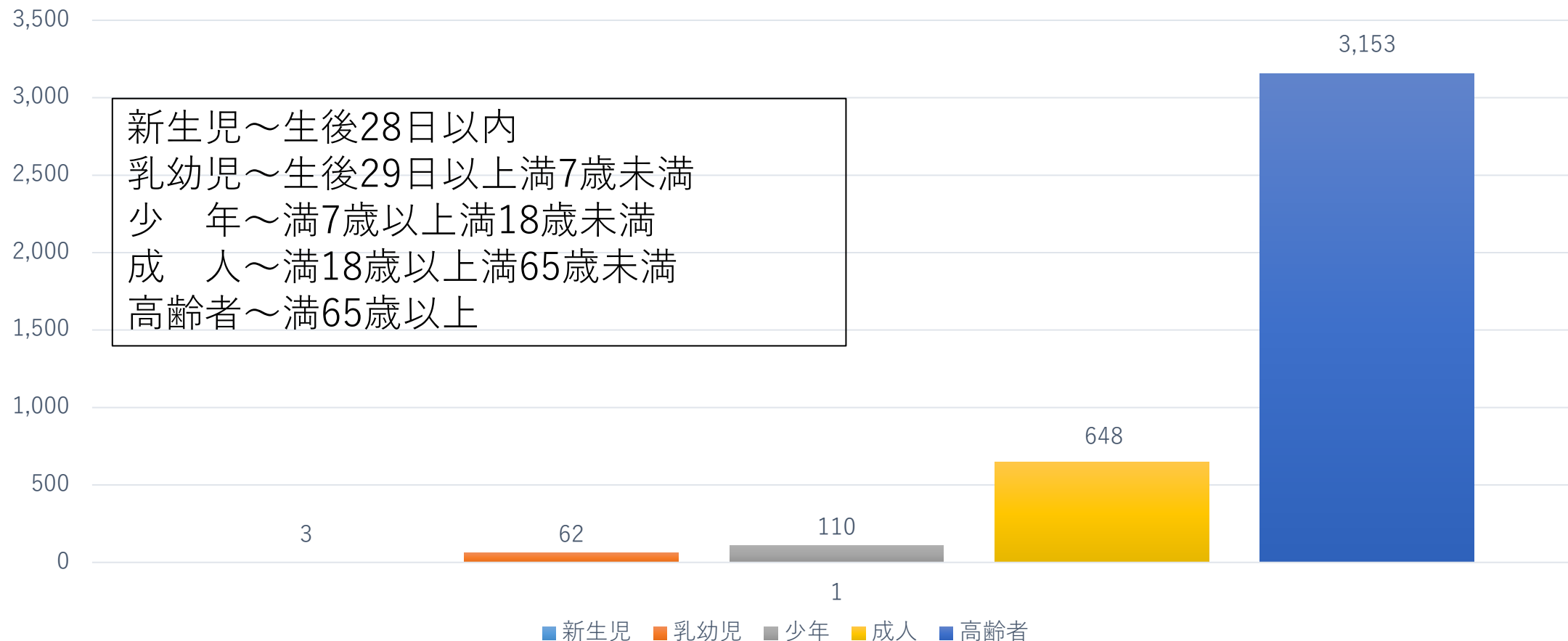
救急業務の推移 出場件数と搬送人員



令和6年 事故種別搬送人員

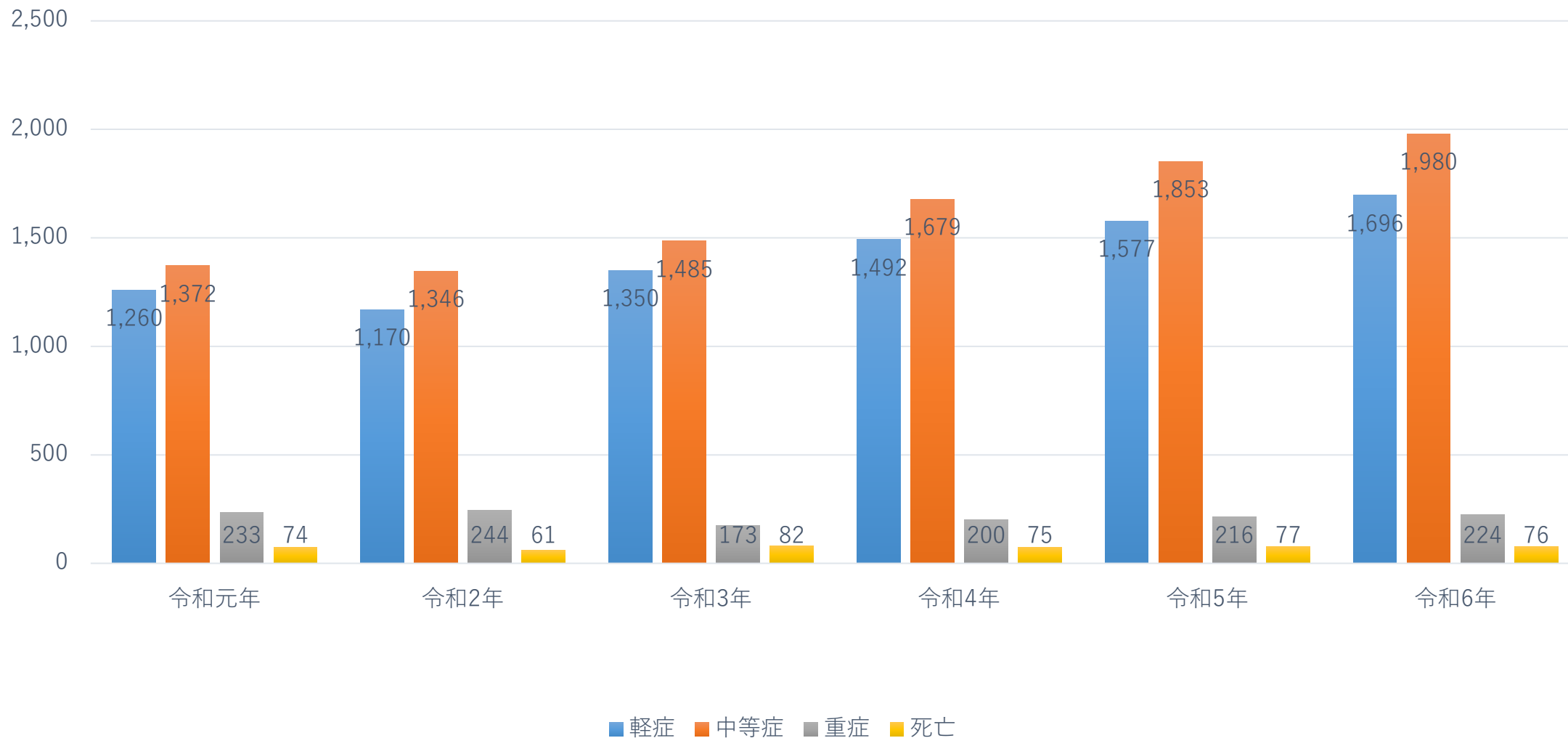


令和6年 年齢別搬送人員

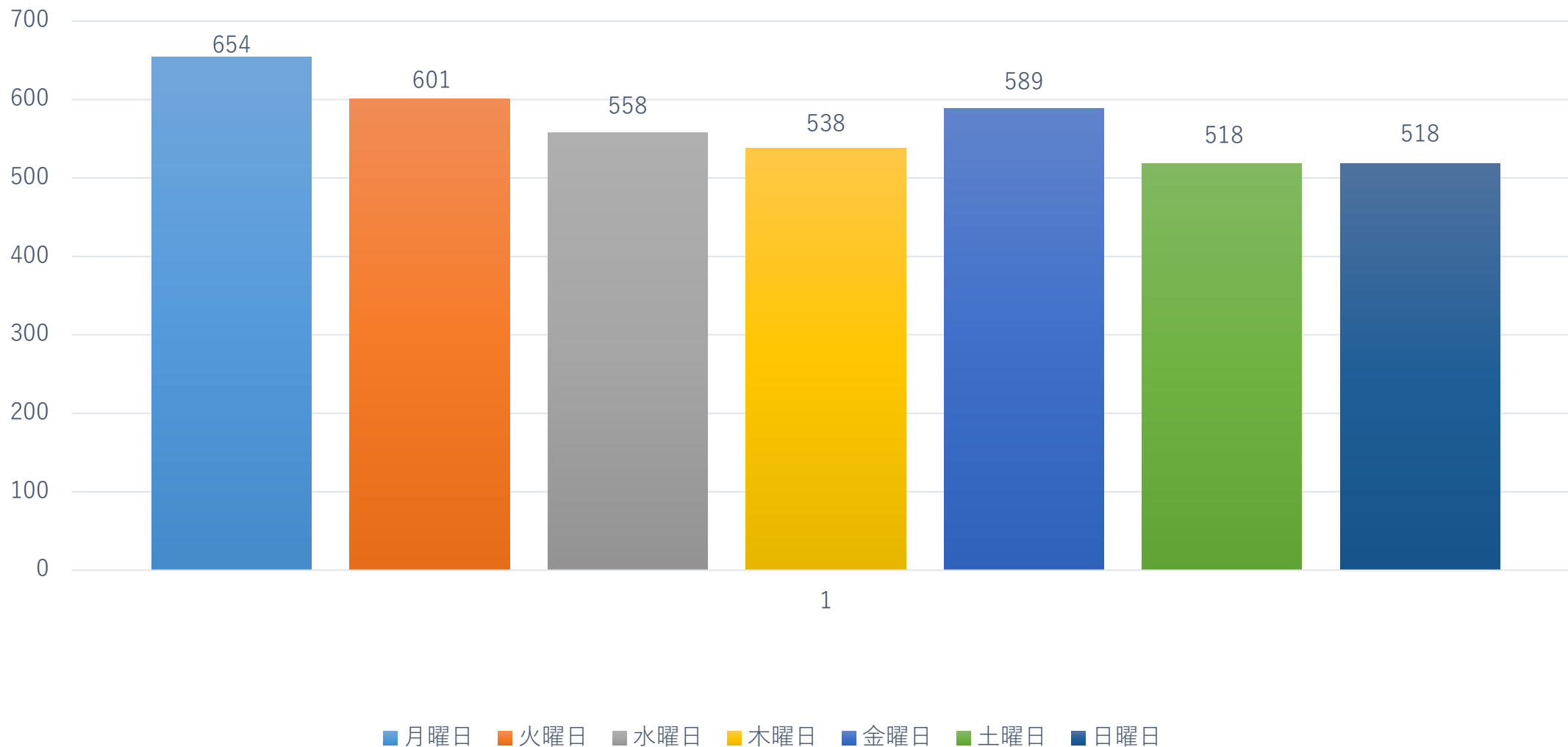


傷病程度別搬送人員

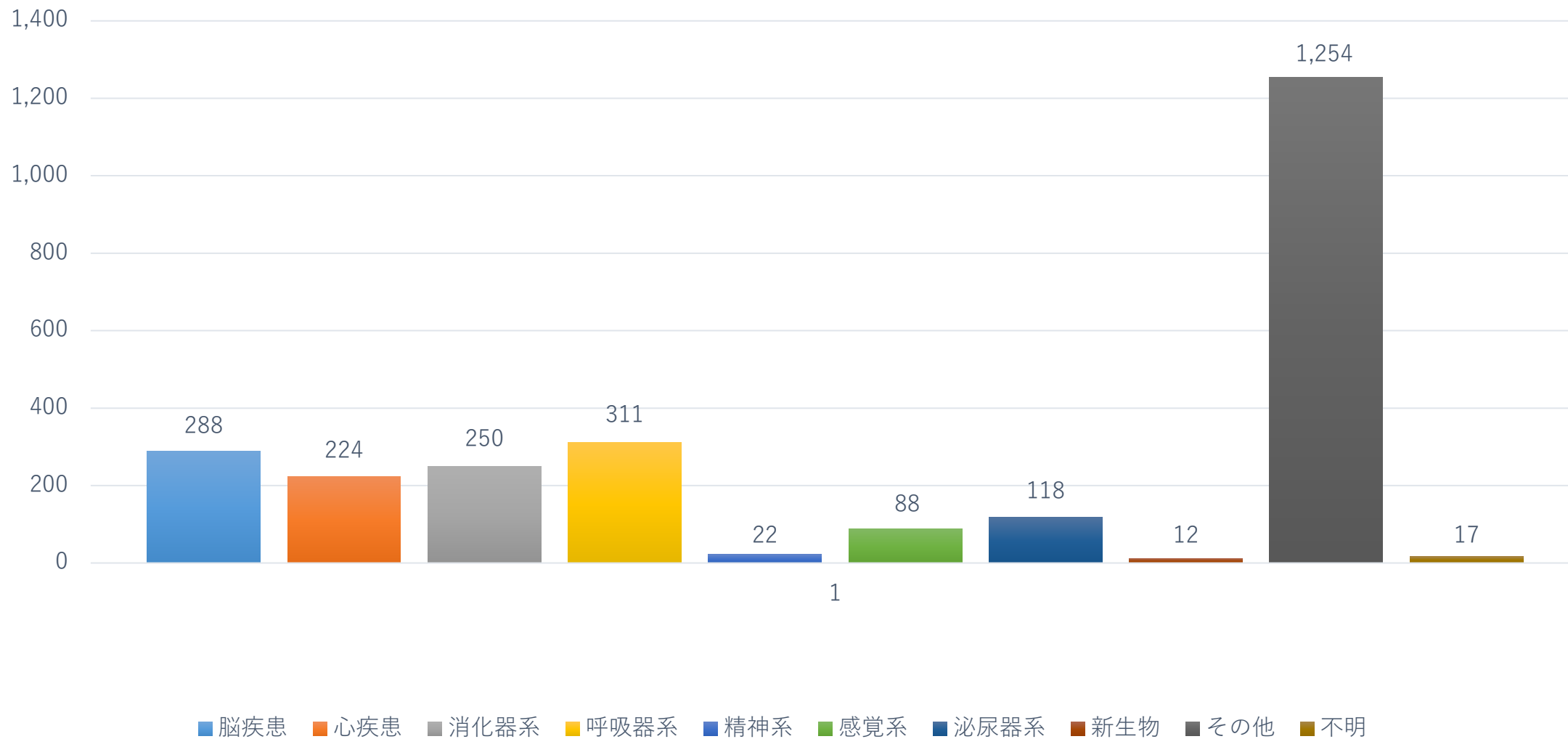
死亡：初診時において、死亡が確認されたもの。
重症：傷病の程度が三週間以上の入院を必要とするもの。
中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの。
軽傷：傷病の程度が入院加療を必要としないもの。



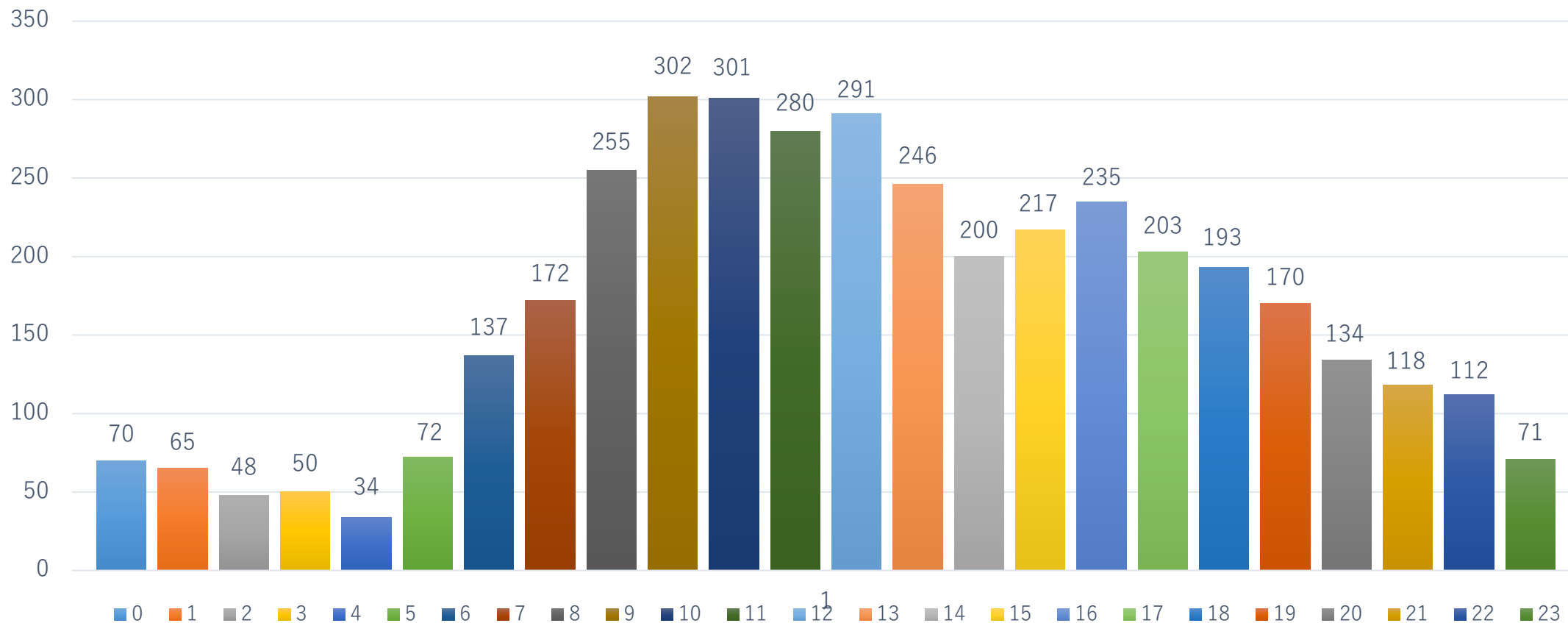
曜日別搬送人員



急病にかかる疾病分類別搬送人員



時間帯別搬送人員

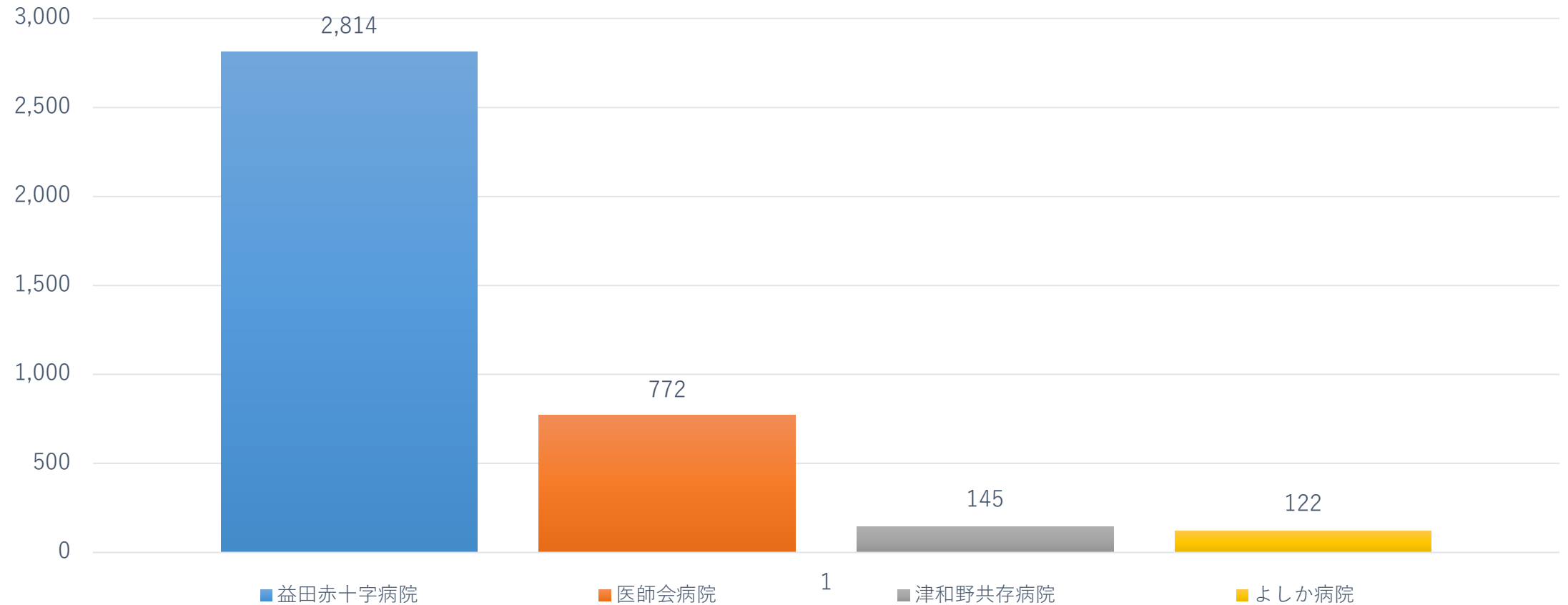


益田広域管内で救急車を受け入れる 主要な医療機関

- ・益田赤十字病院(益田市乙吉町)
ベッド6床、24時間対応
- ・益田地域医療センター医師会病院(益田市遠田町)
ベッド1床、24時間対応
- ・津和野共存病院(津和野町森村)
365日 8:30～17:15対応
- ・よしか病院(吉賀町六日市)
365日 8:30～17:15対応

医療機関別搬送人員

(益田赤十字病院・医師会病院・津和野共存病院・よしか病院)



人生会議(ACP) ～最期まで自分らしく～



「人生会議」(ACP＝アドバンス・ケア・プランニング)という言葉聞いたことがありますか？

自分の意思を伝えられなくなった時に備え、自分の望む医療やケアについて家族や医療・福祉関係者などと前もって繰り返し話し合い、共有する取り組みのことです。

命の危機が迫った状態になると、約7割の人が医療やケアの望みを伝えられなくなるとされています。

万が一の事態に備え、自分の望む最後の過ごし方ができるように、日頃から気持ちや価値観を家族などの信頼できる人と共有しておくことが大切です。

看取る側にとっても、どうしたらよいのか悩むことが減り、大切な人が希望する医療やケアを一つでも多く叶えるヒントになるはずです。

(島根県HPより抜粋)

話し合うこと・考えること

- ・ 将来希望する医療やケア（してほしくないことも）
- ・ 大切にしていること（家で最期を迎えたいなど）
- ・ 意思表示ができなくなった時に、代わりに物事を決めてもらう人
- ・ 今の身体の状態。医療関係者と話していること。 など

気持ちや考えは揺れ動くため、何度も考え、定期的に話し合うことが大切です。

動画から学ぶACP ～厚生労働省～



動画から学ぶACP ～日本老年医学会～



誰にも訪れる最後の時。
そんな時のために『人生会議』があります。
最期まで自分らしくあるために、あなたも

『人 生 会 議』

してみませんか。